

番組審議委員会議事録

松竹ブロードキャスティング株式会社

- 1.開催年月日 平成 26 年 12 月 5 日（金） 12：00～13：00
- 2.開催場所 銀座東武ホテル
- 3.委員の出席 委員総数 9 名
出席委員数 5 名（田中康義、堀江ミエ子、
松本淳、松本行央、太田博）
欠席委員数 4 名（小山観翁、伊藤信太郎、坂田藤十郎、品田雄吉）
- 4.放送事業者側出席 4 名（井田寛[代表取締役社長]、山崎克己[監査役]、
藤本弘之[取締役・編成担当]、鶴澤由紀[編成部長]）
- 5.議事の概要
- ・ 経営報告
 - ・ 衛星劇場の現状報告
 - ・ ホームドラマチャンネルの現状報告
 - ・ 質疑応答

6.議事内容

○経営報告

- ・ 2014 年も多チャンネルマーケットは相変わらず厳しい状況が続く。
- ・ 5 月末にスカパー124/8 度 CS の SD 放送が終了したが、衛星劇場は予想よりも少ない流出で留まっている。
- ・ また 10 月から消費税を見込んで値上げをしたが、衛星劇場は踏みとどまっている。
- ・ ホームドラマチャンネルは、460 万世帯まで加入が伸びてきている。そういった中で、スカパー110 度 CS の基本パックのマイナスが続き、ケーブルルートでの加入も厳しい状況が続いている。
- ・ WOWOW が錦織圭の試合を放送したことで、1 か月で 15 万件的プラスになる。翌月に 8 万件的解約にはなったが、まだまだ加入につながるようなチャンスはある。
- ・ 衛星劇場は引き続き 3 本柱でやっていて、上期は苦戦が続いていたが、下期

の夏以降はかなり良い状況になってきた。

- ・ホームドラマチャンネルは J:COM での視聴率がよく、順位を 2 位まで上げた月もあった。派手な作品がないので話題になりにくいですが、好調は維持している。
- ・新しい事業である“衛星劇場オンデマンド”がスカパーで始まり、12 月 17 日からは「男はつらいよ」全 49 作が配信される。
- ・ワークショップから始まった映画製作事業の第 1 弾「滝を見にいく」が公開。めざましテレビで特集されたことや、糸井重里さんがこの映画を気に入ってくれたことでご自身のブログなどを使って宣伝活動をしてきている。その結果一般の人にも多く知られるようになった。

○衛星劇場チャンネル

- ・邦画、韓流、舞台の 3 本柱を軸に放送。加入動機のアンケート結果を見ても、韓流 7 割、邦画 2 割弱、舞台 1 割弱という結果になっている。韓流が加入動機のメインとなっているので、そこに向けた作品を編成していく。
- ・2 年前に比べて、韓国ドラマの値段は下がってきているので、少し買いやすくなっている。
- ・邦画の新作は WOWOW に出してしまうことが多く、DVD 化されていないような松竹色を出す編成をしてきた。
- ・下期に出資映画はないが、「柘榴坂の仇討」や「紙の月」の公開に合わせた特集を編成している。
- ・来年は松竹 120 周年に合わせて衛星劇場でも連動した企画をしていく予定。
- ・歌舞伎は、歌舞伎座のこけら落とし公演を中心に編成してきたが、一通り終わったので、明治座での花形歌舞伎を編成。
- ・現代劇では、少し若い人をターゲットにして、SNS や WEB で反応してもらような演目を編成していった。
- ・落語では「遺芸・立川談志」というオリジナル番組を作り、これに出資するという形にした。ナレーションを椎名林檎さんにしてもらう。11 月に初放送、1 月には DVD 化。
- ・年末には 13 時間連続で「忠臣蔵」を放送。また高峰秀子さんの特集の中で「七つの海」をテレビ初放送したりと、映画ファンに向けて訴求していきたい。
- ・今後もすべてのジャンルでお客様が獲得できるような編成を目指していく。

○ホームドラマチャンネル

- ・韓国ドラマ、時代劇、国内ドラマの 3 本柱で編成。
- ・昨年は 15~16 位だった J:COM の視聴率が、今年は毎月 5~9 位とかなり上

位で推移。

- ・韓国ドラマでは、日本初放送の30分ドラマがかなり好調。衛星劇場と共同購入することでボリュームディスカウントが出来ている。
- ・時代劇は、「鬼平」、「必殺」、「剣客」を中心に、さらにユニオン映画の「伝七捕物帳」、「新五捕物帳」、「銭形平次」、12月からはテレビ東京の「斬り捨て御免」を編成することで、視聴率アップになればと期待している。
- ・国内ドラマは、フジテレビで放送された作品を中心に、しばらく他のチャンネルでも放送してなかった作品を編成。ターゲットは40代の女性。
- ・特集は、メモリアル、シーズンリーを意識したものを編成。12月は松本清張生誕105年として作品を集めている。
- ・季節ごとに放送してきた大相撲企画も年明けに編成。公開収録という新しい試みで今回は放送していく。内容の濃いものになってきている。こちらも視聴者に定番企画として認識してもらえるようなものにしていきたい。

○質疑応答

Q:2020年のオリンピックとは、御社は何か関わって行くのでしょうか？

A:弊社としては、今のところ特にはない。

一日本の伝統文化をやはり押し出していくようなものを目指していった方がいいと思うので、歌舞伎を公演している松竹は中心となって進めて欲しい。一前回の東京オリンピックの時は、関係者やその家族を呼んで“ナイト歌舞伎”を実施した。

Q:ホテル営業はどうなっていますか？

A:アダルト専門チャンネルでは、まだまだ需要があるが、昔に比べると今の弊社の状況だと依存度は低く、無くなっても特に問題がない。そこに変わる事業としては、ネット放送を実験的にはあるが、やっていきたい。しかし、松竹コンテンツは、配信が難しいので、やるのであれば他社の作品になる。

Q:ホームドラマチャンネルの視聴率が良くなった一番の要因はなんですか？

A:一番の理由は、国内ドラマの視聴率が上がったことがあげられる。CS初放送やちょっと昔の作品で久しく放送されていなかったようなドラマが見られた。

Q:松竹120周年の企画で衛星劇場として何かするのか？

A:毎月松竹映画の特集を組む。また三島由紀夫原作、中村登監督の「夏子の冒険」の一部音声が抜けているが、それをどうにか放送したい。抜けている部分をどう放送するかを今後検討していきたい。

以上